

41年の足跡

—とうゆう最終特集号—

昭和46年度～平成23年度



(社) 日本糖尿病協会関東甲信越地方連絡協議会



世界中の「いのち」のために、タケダの挑戦はつづく。

創業から230年。タケダはいつの時代も、かけがえない「いのち」と正面から向き合ってきました。一日でも早く医療の現場、患者さんのもとへ画期的な新薬を。それが私たちのずっと変わらぬ使命です。さらなる情熱と決意とともに、これからタケダはもっと世界へ。全ての社員のチカラをひとつに、より多くの人々に優れた医薬品を届けていきます。世界中の健やかな明日と、医療の未来に貢献するために。タケダの挑戦に終わりはありません。

www.takeda.co.jp

武田薬品工業株式会社



Good Design Awards
2009



ひとつ先の使いやすさ、フィットカーブ。



持ちやすく血液を吸引しやすい、新しいカタチ。

医療機器として初めてFeliCa搭載^{※1}で、スピーディなデータ活用が可能。

^{※1} 当社調べ



血糖測定システム

メディセーフフィット® 新発売

製造販売業者：テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1

販売名：メディセーフフィット 医療機器承認番号：22100BZX00858 特定保守管理医療機器
®、TERUMO、テルモ、メディセーフフィットはテルモ株式会社の登録商標です。
FeliCaはソニー株式会社の登録商標です。
©テルモ株式会社2009年10月

Dider Kobcis / Interlinks image - Dung Vo Thung / Interlinks image - Denis Félix / Interlinks image - April 2008



サノフィ・アベンティスは、医薬品およびワクチンの研究開発を通じ、多くの人々のQOLの向上に取り組んでいます。

サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi-aventis.co.jp

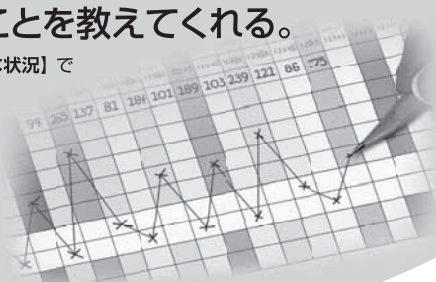
sanofi aventis
Because health matters



体系的な血糖測定が、大切なことを教えてくれる。

アキュチェックは、【適切な頻度】、【適切な時間】、【適切な状況】で血糖自己測定を行う「体系的な血糖測定」を推進し、より負担の少ない血糖自己測定をサポートし続けます。

Roche



ロシュ・タイアグロスティックス株式会社

製品に関するお問い合わせは、「ロシュにハローフリーダイヤル」へ **0120-642-860**
アキュチェックWebサイト <http://www.accu-chek.jp/>

ACCU-CHEK®

協議会のあゆみ

昭和46年4月

協議会発足…41年

昭和53年7月

とうゆう創刊号

昭和57年9月

第1回糖尿病セミナー・水戸市

会員数の推移

S 36年 1,133人,	S 37年 1,507人,	S 38年 1,963人,	S 39年 2,448人,
S 40年 2,560人,	S 41年 3,924人,	S 42年 2,967人,	S 43年 3,076人,
S 44年 3,456人,	S 45年 3,630人,	S 46年 3,890人,	S 47年 4,319人,
S 48年 4,892人,	S 49年 9,875人,	S 50年 6,379人,	S 51年 7,496人,
S 52年 7,447人,	S 53年 7,557人,	S 54年 8,290人,	S 55年10,437人,
S 56年10,814人,	S 57年11,538人,	S 58年12,264人,	S 59年13,115人,
S 60年13,785人,	S 61年15,900人,	S 62年16,092人,	S 63年17,319人,
S 64年18,400人,	H 2 年19,955人,	H 3 年21,193人,	H 4 年21,724人,
H 5 年22,086人,	H 6 年22,556人,	H 7 年23,437人,	H 8 年22,088人,
H 9 年22,506人,	H 10年27,784人,	H 11年27,926人,	H 12年27,679人,
H 13年26,688人,	H 14年25,744人,	H 15年24,633人,	H 16年23,488人,
H 17年23,392人,	H 18年22,961人,	H 19年22,387人,	H 20年21,796人,
H 22年21,122人			

平成23年18,106人 友の会 484人

目次

当会の果たした役割と糖尿病治療予防の推移 ……池田義雄, 鈴木裕也	2 P
糖尿病セミナー30回の成果 …… 伴野祥一, 堀口時子	3 ~ 5 P
とうゆう97号と歩みのピックアップと記録 …… 米沢光夫	6 ~ 11 P
歴代三役と昭和36年~53年加盟支部	12 P
三役及び支部長が協議会の思いを語る	13~ 15 P
メッセージ 新潟…八幡和明、埼玉…山口しず子	16 P
先駆者の思い	17~ 19 P
目で見る活動記録写真	20~ 22 P
功労者と編集後記	23 P

41年間(社)日本糖尿病協会関東甲信越地区連絡協議会の果たした 役割と糖尿病の治療、予防の推移

本会及び東京都糖尿病協会顧問 池田 義雄

(タニタ体重計研究所長・習慣病予防協会理事・生活協会理事)



41年を振り返るとき、私と協会活動の接点について触れねばなりません。それは慈恵医大に昭和26年に充足した「愛宕会」の指導に携わったことと、その年に保健同人社から出版した「糖尿病のコツ」が多くの方に読まれ、啓発活動の重要性を感じ取ったことに端を発しています。

昭和53年の総会に於いて機関紙「関甲信」を発行が決められ、編集委員長に任命されました。そこでこの紙面において糖尿病の新たな知識の伝達とともに、地域における患者と医療スタッフとの連携を深めるよう数々の企画を立てて参りました。この流れの中で本年30回を迎える「関東甲信越糖尿病セミナー」の誕生も見られたというわけ

です。

さてこの41年間の糖尿病の推移を振り返るとき、大きなトピックスは昭和54年(1979)から始まった血糖マーカーとしてHpAl(その後HbA1cへ)測定、昭和56年のインスリン自己注射の健保採用、昭和61年の自己注射測定の健保導入、そしてインスリン注射製剤・ペン型注射器の進歩、更には各種経口糖尿病薬の開発・上市をあげることが出来ます。

このような進歩発展の恩恵を多くの患者さん方の享受してもらうのに欠かせないのが糖尿病の専門医、認定医そして看護師、管理栄養士、臨床検査師、薬剤師など医療スタッフ特に糖尿病療養指導士の存在です。関東甲信地方協議会はこの面でも早くからセミナーの開催など通じて努力をしてきたことは高く評価される

ところです。
ここに尽力された故人も含めた多くの方々に深い感謝を表すものです。

日本糖尿病協会関東甲信越地区連絡協議会41年を振り返って

日本糖尿病協会理事 総務部長本会理事 鈴木 裕也



私が日本糖尿病協会の活動に参加し始めたのは、記憶が定かではありませんが昭和50年前後と思います。関東甲信越地区連絡協議会では 独自にセミナーがお行われ30回を数えるようになりましたが、この関東甲信越セミナーを開始した時のことが記憶にのこります。当時、糖尿病患者さんの橋本関蔵氏が日糖協の理事長をされ、関東甲信越地区連絡協議会の会長もされていましたが、関東甲信越の一都九県で持ち回りセミナーを開催して、地域の糖尿病医療のレベルのアップと患者さんの糖尿病に関する啓発活動をめざされました。

当時は糖尿病の合併症も多く、専門医も少ない状況でした。しかし、費用もかかることから積極的に手を挙げる県もなかったようです、そのような状況下で慈恵医科大学の阿部正和教授が自ら講演を引き受け、謝礼も不要であるとおっしゃられた熱意からセミナーが具体化され、各都県が独自でセミナーを開催する力がつくまでは持ち回りということで、茨城県糖尿病総会が記念すべき第一回の世話人となりました。

その後、糖尿病患者は増加の一途をたどり、政府も糖尿病対策に力を注ぐようになりました。製薬業界のバクアップもあって、医師向け、コ・メディカル向けの教育の場を数多く立ち上げられ、糖尿病の専門医制度、糖尿病協会の登録医制度など治療環境も向上しました。治療薬の進歩も著しいものがあり、適正な治療を続けていれば糖尿病患者さんのQOL(生活の質)や寿命も改善されるにいたりました。これからも、医療者と患者のもと、協会の活動が大いに期待されるところであります。

関東甲信越セミナー第 1 回～30 回

回数	年	場所	世話人	主な演題と演者名
第 1 回	昭和57年	水戸市	内海信雄	「糖尿病とは－合併症,治療,教育」 阿部正和・山下亀次・石渡和男・池田義雄
第 2 回	昭和58年	戸倉町	吉沢国雄	「糖尿病学進歩、地域医療、妊娠、出産」 平田幸生・山田隆司・土屋和子・吉沢国雄
第 3 回	昭和59年	千葉市	広瀬賢次	「検査、網膜症実態」 三木英司・宮原サワ・野口美和子・池田義雄・平田幸正・石川清
第 4 回	昭和60年	前橋市	斉籾昭三	「糖尿病患者の実態と対策、診断治療」 池田義雄・平田幸正・清水弘一
第 5 回	昭和61年	甲府市	長谷 克	「糖尿病療養のコツ、最近の話題」 北村信一・池田義雄・大森安恵・平田幸正
第 6 回	昭和62年	川崎市	藤森一平	「糖尿病のコツとポイント、指導」 池田義雄・平田幸生・田中剛二・松田文子・松岡健平
第 7 回	昭和63年	東京都	北村信一	「糖尿病発症、合併症、指標、検査」 葛谷健、梶沼宏・自己管理をめぐる
第 8 回	平成元年	浦和市	鈴木裕也	「糖尿病治療進歩コントロール」 葛谷健・白石竹昌・高木敏・隆の里・石渡和男・金沢康徳
第 9 回	平成 2 年	足利市	奈良昌治	「糖尿病診断コツ漢方、腎臓」 平田幸生・大塚泰男・鈴木裕也・池田義雄・江戸家猫八
第10回	平成 3 年	新潟市	伊藤正毅	「無症状でも治療、仲よく、臍臓、ヤングの集い」 平田幸生・城戸崎愛・藤田恒夫
第11回	平成 4 年	水戸市	内海信雄	「糖尿病とは、治療、自己管理」 池田義雄・山下亀次郎
第12回	平成 5 年	松本市	中川道夫	「糖尿病理解」 後藤由夫・橋爪潔志・水野肇・堀貞夫・小口寿夫・松岡健平・松田文子
第13回	平成 6 年	千葉市	広瀬賢次	「糖尿病協会の目的、指導、ガン」 北野寿三郎・市川平三郎・赤沼安夫・平田幸生
第14回	平成 7 年	前橋市	大谷健次	「日本人の糖尿病、治療実際」 金沢康徳・ししてんや・小林哲郎・門脇孝・根岸清彦
第15回	平成 8 年	甲府市	土屋和子	「治療の現状と未来、早期発見、国民病」 後藤由夫・田村泰敏・赤沼安夫・鈴木晟時
第16回	平成 9 年	横浜市	矢島義忠	「糖尿病の克服、生活行動変容、患者活動」 後藤由夫・田村泰敏・赤沼安夫・鈴木晟時
第17回	平成10年	東京都	池田義雄	「生活指導、予防」 梶沼宏・牧新一郎・森豊・門脇孝・内潟安子・中川道夫・土屋和子
第18回	平成11年	浦和市	竹村喜弘	「患者心理、妊娠」 岡健平・土屋嘉男・石井均・大森安恵・渥美義仁・関脇孝
第19回	平成12年	宇都宮	松田文子	「老いに備え、会活性化」 葛谷健・河盛隆造・原田勝己・樋口恵子・石川雄一・北村信一
第20回	平成13年	新潟市	相沢義房	「糖尿病治療の変遷・21世紀の糖尿病」 伊藤正毅・門脇孝・大森安恵
第21回	平成14年	松本市	橋爪潔志	「一次予防、患者体験、食物情報ウソホント」 高橋久仁子
第22回	平成15年	横浜市	斉籾宣彦	「食事、運動、薬物」 田邊弘子・石黒友康・大塚洋・南信明・横山淳一・金森晃
第23回	平成16年	千葉市	斉籾 康	「動脈硬化、生活見直し」 佐々木敬・田中景子・長田正明・松岡健平・立川らく朝
第24回	平成17年	東京都	岩本安彦	「治療の現状未来、早期発見、国民病」 後藤由夫・シンボ・パネル田村泰敏・赤沼安夫
第25回	平成18年	甲府市	小林哲郎	「網膜症、米国の治療最前線」 小林哲郎・今井雅仁・大塚孝裕・原口和貴・宮川高一
第26回	平成19年	日立市	山田信博	「治療の課題と未来、ライフサイクル」 山田信博・田中直子・後藤千秋・高橋昭光・桂善也
第27回	平成20年	さいたま市	河津捷二	「楽しい教室、自己管理、チーム医療」 坂根直樹・金子義徳・金胎芳子・安西正弘
第28回	平成21年	前橋市	伴野祥一	「笑い頑張りましょう」 伴野祥一・山田思郎・甘利雅邦・中島英雄・桂前治・高橋美公子
第29回	平成22年	宇都宮	石橋 俊	「ストップザ合併症,療養,治療知識」 服部良之・安藤康弘・嘉村由美
第30回	平成23年	新潟市	八幡和明	「災害時の糖尿病医療を守るため」 松井浩・石井均・谷長行・中川理・田村紀子

第30回 関東甲信越地区糖尿病セミナーの成果

「関東甲信越セミナー」は友の会を発掘、充実させた

群馬県支部 さかえ編集委員 伴野 祥一



群馬県内で『関東甲信越セミナー』が広く意識されたのは、昭和60年第4回セミナーが群馬県で開催されてからだと思います。このセミナーを第1回『群馬県セミナー』にあて、毎年県内各地で群馬県セミナーが開催され、今年で27回となります。平成7年第14回関東甲信越セミナーは、時の大谷会長が県内の『友の会』をくまなく周り、地域の友の会の結成と会員増強に大きく貢献されました。これを機に、群馬県糖尿病協会は大きく飛躍したのだと思います。第20回までは、関甲信全体でセミナーを開催するという形で「各県の友の会」の活性化に大きく貢献したと思います。我々の「みやま会」でも毎年セミナーを口実に、貸し切バスで一泊旅行を行い、楽しい思い出を沢山作ることができました。

第21回からは各県主体のセミナーとなり、参加者の意識はやや低下した感があります。第28回群馬県

で3回目のセミナーでしたが、群馬県で開催される最後の関甲信セミナーということで、県内の友の会の結束が図られました。このように、関甲信全体の会員が参加して、一緒に何かするという行事はこのセミナーだけあったかと思っています。是非、改廃後も関甲信の会員全体が参加する行事を続けて頂けたらと思います。



セミナーから得られる 見えない財産

堀口 時子

関東甲信越糖尿病セミナーは秋新潟での第30回をもって終了します。

私は第13回（千葉）からほとんど毎年参加してきました。患者にとって専門医や患者の体験談から学べる数少ない機会であり、ここから多くのこと得られたことに感謝します。また2回の群馬県開催に関わりましたが、その過程で培われる絆、学びは後々

の県の運営を牽引し、友の会の活動を支える底力となっていると実感しています。

当日の参加人数や盛況といった表面的な成果ではなく、目には見えない本質的な成果が主催県のにとっては何倍も大きな財産となると思うと、セミナーが開催中止は残念でなりません。



第28回セミナーの成功をスタッフ手を挙げ祝う

■ 筆者の履歴 (堀口時子) ■

群馬支部選出10年間 (H12年より5期) 関甲信理事歴任・管理栄養士・糖尿病療養指導士・みやま会副会長、群馬ヤングDMにむぎの会スタッフ、健康友の会事務局長、笑い療法士 (一型DMで病歴18年) 上大類病院勤務

関東甲信越セミナーは同地方の糖尿病予防治療を向上させ 多く糖尿病患者さんを救い友の会の発展させた

長野支部 米沢光夫



私は松本病院に赴任した昭和 50 年から友の会と長野支部、関東甲信越とほぼ 40 年間にかかわって来ましたが、昭和 50 年代の長野支部では糖尿病教室、講演会を企画しても専門医の講師は居らず、吉沢国雄先生お一人で糖尿病週間行事では 10 数回弁当持ちで、もちろん報酬なしでのかけ周る状況でした、第二回のセミナーは吉沢国雄先生が世話人で長野県上山田温泉で開催しましたが未だ糖尿病の関心は薄く友の会も数ヶ所過ぎずこれを契機に年々友の会も増えて来た、分会には専門医は 30%に未たらず、支部行事の中心は当セミナーと日糖協総会講演会で分会から参加者を募集し支部で参加費を補助しバス 2～3 台で参加する事でした。セミナー参加帰りのバスの中で 4 時間近く車内 DM 教室になりセミナーの新鮮な、糖尿病予防・治療・友の会の活動が話題になり皆んな、良い勉強になり、友の会の活動に自信をもてたと語りあったものでした。平成 5 年に長野支部 30 周年記念式典開催し 30 年誌発行した。この年には 41 分会、専門医も 90%近く配置されて各病院や診療所で自立講演会や教室が開催されるようになり支部でも全県的信州セミナーを行い関東セミナー参加も役員他数人になり第 21 回関東甲信セミオナー松本で開催したが低経費でをモットーで県外からは役員含め 10 数人でした。

そして平成 20 年の総会でセミナーは第 30 回で一先ず終わることが議決された。(平成 24 年からは都県地区セミナーとして糖尿病学会関東甲信越支部の協力と応援により都県糖尿病協会と糖尿病学会関東甲信越支部の共催で開催。(あくまで自主的であり開催如何は支部の意志によるとなります)

有限会社ニヤサカ印刷

〒390-0852
長野県松本市島立 1144-1
tel:0263-47-3017
fax:0263-47-7608

印刷・製本、広報・文集、記念誌・自費出版、ポスター・横断幕、
大判カラープリント、パンフレット、名刺・ハガキ、封筒、挨拶状

とうゆう歩み 創刊～終刊特集号

号	発行日	主な紙面①	主な紙面②	主な紙面③
創刊	昭和53年7月20日	機関紙発行総会決議	誌名「関甲信」	機関紙発刊祝
2	昭和53年10月1日	第14回糖尿病週間	糖尿病と食生活	支部週間行事
3	昭和54年1月1日	会員倍加と国際会議	アルコールとDM	支部週間行事報告
4	昭和54年4月1日	会員1,080名に	運動のある生活	協会活あ動を発展
5	昭和54年7月1日	会員9,843名に	海外旅とインスリン	アルカリと酸性
6	昭和54年10月1日	第15回糖尿病週間	高血圧とDM	薄味の効用
7	昭和55年1月1日	待望一万14人に	余病あが出易いのは	協会活動の輪を
8	昭和55年4月1日	各支部始動	正し指導	協会活動と正しい知識
9	昭和55年7月1日	新布陣発足横井会長	タバコと糖尿病	協会活動と医師と患者
10	昭和55年10月1日	インスリン健保給付運動	高脂血症と糖尿病	支部活動の動き
11	昭和56年1月1日	第16回週間行事	目のQ&A	支部学集会
12	昭和56年4月1日	インスリン健保給付前進	自己測定	東京支部20周年
13	昭和56年7月1日	自己注射6月1日実施	腎臓Q&A	新食品交換表
14	昭和56年10月1日	本部創立20周年記念式典	全115分会紹介	栃木支部10周年
15	昭和57年1月1日	栃木・会員章誕生	インスリン注射	支部行事展開
16	昭和57年4月1日	若い人の糖尿病	癌など成人病	我が闘病10年
17	昭和57年7月1日	関甲信セミナー実施水戸	歯と糖尿病	神奈川サマーキャンプ
18	昭和57年10月1日	東京支部20周年茨城10年	知識だけでは防げない	全支部友の会一欄
19	昭和58年1月1日	功労者23氏表賞	インスリン注射	ビタミン豊富に摂る
20	昭和58年4月1日	第2回セミナー長野で	コントロールは自分で	歩く事の効用
21	昭和58年7月1日	第24回総会	心臓病と糖尿病	支部の動き
22	昭和58年10月1日	協会の発展と活動の充実	性生活と糖尿病	無医地区の糖尿病
23	昭和59年1月1日	第3回千葉セミナー	ストレスと糖尿病	各地のもよほし
24	昭和59年4月1日	インスリン30日処方	多面的な看護	協会の発展を願う
25	昭和59年10月1日	第26回関甲信総会	神経障害と糖尿病	支部の総会
26	昭和60年1月1日	第20回週間行事準備OK	全支部友の会一欄	急ぐ合併症対策
27	昭和60年4月1日	第4回群馬セミナー決まる	軽口剤と糖尿病	各地行事盛況
28	昭和60年7月1日	機関紙名『とうゆう』改名	運動と糖尿病	各支部からの便り
29	昭和60年10月1日	会長に橋本関蔵	甘味料と糖尿病	不安と貴重な体験
30	昭和60年10月1日	法人化日糖協	私と糖尿病	週間行事にむけて
31	昭和61年1月1日	会員倍増二次目標5万	糖尿病とビタミン	運動不足病
32	昭和61年4月1日	自己測定健保4月1日実施	糖尿病と妊娠	第6回セミナー神奈川

号	発行日	主な紙面①	主な紙面②	主な紙面③
33	昭和61年10月1日	法人化に組織拡大	肝臓と糖尿病	東京支部25周年
34	昭和62年1月1日	総ての患者の幸せを	糖尿病と甘味の使用	正確に忠実食べる
35	昭和62年1月1日	秋の理事会で会員2万目標	治療中断者	治療の継続
36	昭和62年4月1日	会長に三浦治雄さん	小児糖尿病自然経過	上手につき合っ
37	昭和62年7月1日	社団法人に・当会員1万6千	小児糖尿病自然経過	永遠の友
38	昭和62年10月1日	関甲信越の歩み道	全支部友の会一欄	各支部からの便り
39	昭和63年1月1日	日糖協の法人の歩み	糖尿病合併症	第6回セミナー参加増
40	昭和63年4月1日	糖尿病予備軍に訴える	フルクトサミン測定	新たな意欲を
41	昭和63年7月1日	会員1万7千人になる	とうゆの果たす役割	年1回は癌検診を
42	昭和63年10月1日	会員平成5年に4万人に	糖尿病は食事が基本	私の糖尿病
43	昭和64年1月1日	第7回セミナー東京報告	糖尿病の自己管理	中断者へ手をさしのべる
44	平成1年4月1日	長寿のため講演会	質の良い情報	無知はおそろしい
45	平成1年7月1日	積極的な活動の息吹き	足のしびれ対策	必ず治る
46	平成1年10月1日	会員20,000人にあと一步	協会に加入を	コレステロールメバチロン
47	平成2年1月1日	第9回セミナー栃木	糖尿病と肥満、食欲	運動こそ最高の妙薬
48	平成2年4月1日	医療スタッフも会員に推進	過食しない	中断者にうたえる
49	平成2年7月1日	会員19,955人に	健康なうちに病院に	糖尿病貴方が主治医
50	平成2年10月1日	これから活動をめぐって	全支部分会一欄表	各地からの便り
51	平成3年1月1日	組織づくりを論議	患者に望むこと	選手の心がけで
52	平成3年4月1日	第10回セミナー新潟市	血糖値を早く知る方法	健康は自らまもる
53	平成3年7月1日	新潟の協会活動を広める	食事、運動、インスリン	DMは私の良き伴侶
54	平成3年10月1日	会員21,100達成	食物繊維を上手に摂る	治すのは自分と考えて
55	平成4年1月1日	大切な膵臓の異常	仲よく生きて	ヤングの集い
56	平成4年4月1日	食べる量を減らして	患者さんとともに	油断大敵
57	平成4年7月1日	東京以外から田中会長	自己管理の進歩	胃がんの併発
58	平成4年10月1日	構成員の増加	一人ぼっちをなくそう	糖尿病は病か
59	平成5年1月1日	11回セミナー水戸,12回松本	間違った自己管理	その日その日を大切に
60	平成5年4月1日	週間のテーマ合併症の予防	良好なコントロール解決	強い意志えお持って
61	平成5年7月1日	さかえ毎月発行	温かい励ましで20年	日曜日朝ラジオ放送
62	平成5年10月1日	会員数22,088に46年5倍	たかが糖尿病	ウォークラリー始まる
63	平成6年1月1日	水野肇が特別講演	喫煙問題講演会	コントロールのコツ
64	平成6年4月1日	新しいさかえをよんで	家族の理解と協力で	検査と自己管理

号	発行日	主な紙面①	主な紙面②	主な紙面③
65	平成6年9月1日	編集委員長交代松葉さんに	会の活動の発展の為	運動、食事療法
66	平成8年1月1日	未来は明るい・後藤由夫	第14回セミナー報告	会員数24,422人
67	平成8年7月1日	姨捨山の話・中山会長	15回山梨セミナー開催	上手に付き合って楽しい
68	平成9年1月1日	平成9年を迎えて	ハガキ大糖尿病手帳	日糖協25周年公開講座
69	平成9年7月1日	北村信一副会長の理念	ネットワークコーナー開設	歩いて善光寺詣で
70	平成10年1月1日	生活習慣を点検しよう	わたしの奮戦記	IDFツアー報告
71	平成10年7月1日	田村泰敏新会長に10年4月	NHK健康クリニック	分会430・会員27,282
72	平成11年1月1日	17回セミナー報告池田義雄	私の減量法	食事療法の敵、味方
73	平成11年7月1日	療養指導士について	ネットワークで読む	不良患者の失敗だん
74	平成12年1月1日	糖尿病の新しい診断法	協会に加入パンフレット	栃木ウオークラリー
75	平成12年7月1日	本当の気持ち	もがいているけど	会の活性化・群馬支部
76	平成13年1月1日	ストップザ合併症・岩本安彦	自分の体を大切に	糖尿病手帳の活用を
77	平成13年7月1日	週刊紙,テレビに見るDM	血糖下げるを飲み薬	糖尿病と不景気
78	平成14年1月1日	療養指導士って？	足の体操	糖尿病の復讐
79	平成14年7月1日	糖尿病の道具は揃った？	食中毒に御用心	信頼なくして療養なし
80	平成15年1月1日	第21回セミナー長野報告	夫婦で話し合った結論	2003年のお願い
81	平成15年7月1日	インスリンの抵抗性	民間療法を試み有るか	自分らしく
82	平成16年1月1日	新しいタイプの治療薬剤	ウオーキングと膝の痛	あっという間の30年
83	平成16年7月1日	食後高血糖の治療	病に効く食品？	健康食品の効用
84	平成17年1月1日	緊急時の対応	転ばないために	飲酒の苦を乗り越えて
85	平成17年7月1日	秋から冬の乗り切方	糖尿病と言われても	私を変えてくれた人
86	平成18年1月1日	免疫学会トピックス	新しい人生の出会い	佐渡に友の会が誕生
87	平成18年7月1日	涙か、微笑みか食事療法	食生活の難しさ	糖尿病は1人で戦えるか
88	平成19年1月1日	少し血糖を下げて見ません	夢とロマンの闘糖尿病	会員増強活動
89	平成19年7月1日	糖尿病と高血圧・・・敵	万歩計つけて良かった	月1回の楽しみ友の会
90	平成20年1月1日	糖尿病デーのどう生かすか	腕ふり運動	会員増埼玉支部摂り組
91	平成20年7月1日	インスリンの不要になる日	病気との出会い感謝	相談し合える仲間治療に
92	平成21年1月1日	治療が進歩が現状の合併症	患者と共に歩む医師	微笑みは悩みを救う力
93	平成21年7月1日	糖尿病とお酒	糖尿病と出会いと付き合い	日頃の思い、北村信一
84	平成22年1月1日	上州から広げよう	民間療法	目で見る世界糖尿病デー
95	平成22年7月1日	22年度総会	寒天の秘密	会員数20,595人
96	平成23年1月1日	支部活動報告	問題点自覚させる指導	幸せ、今生きていること
終	平成23年10月16日	34組織解散と歴代3役	とうゆうだより1号～97	セミナー第1回～第30回

ピピウアウプとうゆうだより

創刊号53年7月1日～10号

一面：橋本関蔵会長あれこれ：波紋・本部参加の意義：早期発見：地域活動：協会活動
 5：医学進歩：会員1千人：会員55年1万人：55年横井清人会長3代就任：インスリン健保給付運動陳情
 二面：創刊祝う：アルコール：運動：高血圧：肥満：正しい指導：タバコ：豆乳
 三面：外来あれこれ：繊維：薄味：空腹対策：栄養士とコンビで：コレステロール
 四面：克服甚旬片瀬一登：闘病記谷口ゆきみ：東糖の歩く会・活動・千葉支部誕生

11号56年1月1日～20号

一面：自己注射健保給付：波紋：医療問題根本：正しい知識：日糖協20年：知識だけでは防げない合併症：合併症が良く知って：不可逆的合併症
 二面：網膜症：自己管理：腎臓：若い人の糖尿病：歯：皮膚病：自己注射
 三面：良い診療は良い患者から：60歳からの健康：がんに注意：治療中断
 四面：全分会紹介：事業所の理解：歩く事の効用：民間療法で身を誤った2人

21号58年7月1日～30号

一面：波紋：治療のさまだげ、根強い無理解：インスリン30日分処方：26回総会：中断者復帰促進：法人化間近い日糖協
 二面：心臓病：性生活：ストレス：自律神経：経口剤：運動療法：甘味料
 三面：一病息災：軽く見ている：週1回反省の日を：婦人に網膜症が多い
 四面：専門医療の光：よい専門医との出会い：日糖協総会バス40名参加長野

31号61年1月1日～50号

一面：波紋：治療中断者復帰と医療スタッフの対応：法人に期待する：日糖協に果たす（とうゆうニュースの果たす役割）：自己測定61年4月1日
 二面：ビタミン：肝臓：甘味料：目：フルクトサミン測定：癌検診：食事：デブ：舌
 三面：実行出来る教育：後悔しないために：糖尿病あなたが主治医：治療中断者患者問う
 四面：患者教育の光と影：永遠の友：無知は怖い：運動こそ最高の薬：自分の行く末を

51号H3年1月1日～70号

一面：波紋：会員2万1千：汗ばむ運動：姨捨山の話
 二面：患者さんに望むこと：自意識：治すのは自分：臍臓の異常：残す勇氣：神経障害
 三面：糖尿病自己管理の進歩：ラジオ放送：一人でも多く理解者を：実行と継続
 四面：選手の心がけで：胃がんを併発：ウォークラリー：日糖協のバッチ誕生

71号H10年7月1日～90号

一面：21世紀に向かって：療養士ってなあに：秋から冬の対：会員27,282人：長生きできる：診断基準：本当の気持ち：足の体操：以外の生活主観病は大丈夫：ウォーキングと膝の痛み：健康食品の功罪：サマーキャンプ：継続管理と治療

91号H20年7月1日～96号

一面：インスリンが不要になる日：糖尿病治療進歩：お酒の話：日頃の思い：民間療法：予防を大切に：目で見える世界糖尿病デー：寒天の秘密：会員20,595人：食生活アドバイス：本部会費倍増について：新しい治療薬に期待

最終号の内容

公益法人組織替えにより本会組織廃止により50年間の歩み：歴代役員：30回糖尿病セミナーの概要：とうゆう100号の歩み：関東甲信越地区連絡協議会の43年の果たした役割と糖尿病治療、予防の進歩・池田義雄・鈴木裕也。組織が消えるに当たり各支部長及び関係者：の一言集と思いで写真集を転載した。

信甲
とうゆう
とうゆうだより
糖友ニュース

編集人：とうゆう発行編集委員会
 印刷：南三サカイ印刷
 事務局：米沢光夫
 松本市瑞光館 4-4-38
 TEL 0283-35-8300
 FAX 0283-39-7180

とうゆうだより特筆写真集め

機関誌発行総会で決議
機関誌「信」を
発行総会で決議

初代編集委員

糖尿病人生はまさに不可逆的
「糖尿病人生はまさに不可逆的」

糖友人生不可逆的・鈴木先生

波紋
「波紋」活動

池田先生 s 56年

2万人にあと1歩
関東甲信越の会員動向

支店名	会員数	
	平成22年4月2日	平成23年9月1日
前木	490	762
群馬	512	855
鹿沼	850	900
宇都	1,107	1,213
宇都	1,049	1,260
宇都	4,499	7,429
宇都	2,445	5,126
宇都	200	202
宇都	2,570	3,044
宇都	568	640

第2回セミナー長野戸倉 s 58年10月1日

第10回新潟セミナー

第21回関東甲信越糖尿病セミナー報告

長野県糖尿病協会会長代表世話人大槻 瀬平 事務局 米沢 光夫

「糖尿病と楽しくつきあおう」
「手づくり・患者中心・金をかけない」

開会式(右より)
長野県糖尿病協会会長代表世話人 大槻 瀬平
日本糖尿病協会関東甲信越地方連絡協議会会長 田村 泰敏
関東甲信越糖尿病セミナー実行委員会委員長 鈴木 裕也
松本市長 有賀 正
代表世話人信州大学教授 横爪 潔志

糖尿病患者が体験談

松本で関東甲信越セミナー

第21回セミナー松本

とうゆう

糖友ニュース 第90号
平成23年1月1日発行

目で見る世界糖尿病デー



群馬県庁



松本城

神奈川支部
マリンタワー

神奈川支部 横浜



千葉ポートタワー



高崎市役所



善光寺



ベイブリッジ



新潟支部 萬代橋



佐久総合病院



大阪城



埼玉支部

とうゆうだより特集号でサヨウナラ

昭和46年4月関東甲信越地方連絡協議会が発足した、この会の目指すところは学会と相互緊密に連絡し学会の指導により糖尿病の予防、治療について会員の啓蒙学習の機会を計画し又各県支部との連携によりレベルアップに努め会員の療養福祉の向上を目的とする活気ある組織である。

発足から7年間連絡協議会の機関紙がなく総会の決議により昭和53年7月「関東甲信」が池田義雄編集委員長により創刊号発刊された。その間34年間、平成23年10月最終号97終号で「とうゆうだより」は幕を閉じる事になりました。

この間34年間一都9県3万余の協会員の広報のメディアとして役割と糖尿病の正しい知識と体験談は会員の療養効果を挙げる上に有用となったと信じています。

初代池田義雄編集委員長と和は昭和50年国立松本病院で出会いそれから今日まで糖尿病協会に（友の会）40年間関係してきました。然も偶然3代目の編集事務担当したのも何か縁だと思う。創刊号から目を通して主な課題や関心毎を挙げて見た、34年間の出来事、担当者や役員の実力や経過の思いが目に浮かび感慨を深く先輩の努力、熱意に敬服し感謝、感謝です。

加盟支部と歴代三役

昭和36年～53年の加盟支部

年	加盟支部	年	加盟支部
昭和36年	東京、千葉、長野	昭和45年	
昭和37年		昭和46年	関東甲信越発足7月1日41年
昭和38年		昭和47年	栃木参加
昭和39年		昭和48年	神奈川、茨城参加
昭和40年		昭和49年	
昭和41年	群馬参加	昭和50年	
昭和42年		昭和51年	山梨参加
昭和43年	新潟参加	昭和52年	
昭和44年			

昭和46年～平成23年三役

年 度	会 長	副 会 長	編集委員長	事務局
昭和46～52年度	記録不明	記録不明		
昭和53・54年度	橋本関蔵	前川正雄・渡辺菊治郎・永田宗太郎	池田義雄	
昭和55・56年度	橋本関蔵	前川正雄・渡辺菊治郎・永田宗太郎	〃	
昭和57・58年度	横井清人	五十嵐誠・袖山晴雄・永田宗太郎	〃	
昭和59・60年度	橋本関蔵	田中甲一・大西玉雄	〃	
昭和61・62年度	橋本関蔵	田中甲一・大西玉・小室寛・小野恒夫	〃	
昭和63・64年度	三浦治雄	田中甲一・大西玉・小室寛・小野恒夫	〃	
平成2・3年度	三浦治雄	田中甲一・谷利精造・小室寛・小野恒夫	〃	
平成4・5年度	田中甲一	中山紀雄・谷利精造・小室寛・小野恒夫	〃	
平成6・7年度	中山紀雄	高橋貞二・田村泰敏・小松義郎小野恒夫	松葉育郎	倉林倫子
平成8・9年度	中山紀雄	高橋貞二・田村泰敏・大槻瀬平・北村信一	〃	〃
平成10・11年度	田村泰敏	高橋貞二・大槻瀬平・北村信一	〃	〃
平成12・13年度	田村泰敏	大槻瀬平・本橋義治・北村信一・高橋貞二	〃	赤堀和子
平成14・15年度	田村泰敏	大槻瀬平・本橋義治・北村信一	〃	〃
平成16・17年度	田村泰敏	大槻瀬平・北村信一・田和允弘	〃	〃
平成18・19年度	田村・大槻	大槻瀬平・北村信一・菅原正弘	〃	〃
平成20・21年度	大槻瀬平	北村信一・菅原正弘・本山昭一	米沢光夫	米沢光夫
平成22・23年度	大槻瀬平	北村信一・菅原正弘・本山昭一	〃	〃

三役及び支部長が協議会の思いを語る

41 年間の関東甲信越地区連絡協議会の組織が公益法人移行に伴い定款改正され組織が消滅となります。

私儀大槻瀬平が最後の会長の任にあり幕を引く事になりましたが、この措置が糖尿病協会の将来にどんな結果をもたらすかは想像が出来ない。

公益法人移行が会員（患者）の福祉の向上を始め会の発展、国民病の糖尿病の治療、予防にどう影響するかは、今後を確り検証しなければなるまい。

当会も発足 41 年間糖尿病の知識の普及や学習の実際、療養のヒントや運動の普及に努め更に「とうゆうだより」「糖尿病セミナー」の 2 本柱を軸に活動をして関東甲信越地区の支部の活性化に貢献して来た。41 年間、諸先輩、諸先生、療養指導医、友の会を担当して来た方々長い間本当に有難う御座いました、紙上かりて心から厚く感謝申し上げます。

本特集号で出来る範囲で事業や活動の歴史を記録しました、この 41 年間で今後支部糖尿病協会の発展と友の会充実に寄与できれば幸いです。

関東甲信越地区連絡協議会会長 大槻瀬平



地域患者友の会の繁栄こそ

日糖協の発展の鍵

糖尿病患者教育の祖であるジョスリン先生は 1952 年第 1 回国際糖尿病連合会議で「糖尿病は治せないがコントロールすることは可能である」との後世に残

る名言を残した。「コントロール」とは適切な治療を継続して健康を維持するという意だが、そのレベルが問題で、今日でも糖尿病患者さんを一生健康人なみ並みのレベルにコントロールするのは容易でない。

糖尿病治療、療養指導が格段に進歩した今日でも合併症は増加し糖尿病患者の寿命は健康人に比べ 10 年以上短いのが現実だからである。では、現状の改善には何が必要か。それは医療施設での治療、療養指導に加え、地域での患者友の会の活動をより活発にすることであろう。患者同志が病気のこと、家庭のこと、愚痴まで自由に話し合う。その中からお互いの信頼が生まれやがて糖尿病自己管理達成を志す強い健全な友の会が地域に輪を広げる。

丁度「なでしこジャパン」のように。この形の推進が良いと思う。関甲信なきあと、日糖協は今後この方向に全力を注ぐべきであろう。全ては糖尿病患者の幸せのためであり、それが日糖協の発展に繋がると考える。

平成 23 年 8 月 17 日付けで北村先生が上記の原稿送付な際、私米沢あての情熱文です。関甲信 41 年本当に御苦勞様でしたが、地域々での友の会活動は一層拡大、向上、普及をせねばなりません。私も東京地区で、この仕事を一層がんばるつもりです。それにしても、まとめ役、世話役が必要でしょう。今後は各都県支部が関甲信の今迄成してきた役割をになっていかなければならないでしょう。又当号に執筆してくれた川口市の山口しづ子さんが東京の病院で北村信一先生に診察受けておりました「とうゆうだより」93 号見て懐かしく思い、今でも私達の為に尽力下さり頭が下がります。当時厳しい方で怖かった事思い出します。今思うと私が若かっただけにあってそうしてくれたのだと感謝しております。

関東甲信越地区連絡協議会副会長 北村信一



日糖協公益法人への移行に伴い、地方連絡協議会は日糖協の組織からはずれ、解散せざるを得なくなりました。

これまでの 41 年間に亘り、関甲信が果たしてきた功績は多大なものがありました。1978 年に創行された「とうゆう」も今回をもって終刊となります。「とうゆう」は 96 回も発行され、医療に関する情報及び各支部の情報媒体を果たした効果は多大でした。又 1962 水戸市開催を皮切りに関東甲信越セミナーも 30 回新潟市開催を以って幕となります、千葉支部では第 3 回 (1984 年) 13 回 (1994) 23 回 (2004 年) の 3 回開催しましたが、その都度糖尿病に関する意識が高まり、支部組織が拡大しました。

今後の問題として、関甲信の組織はなくなりますが、機能は残す必要があります。これをどのように運営するか議論が必要であります。

インターネットの普及などで情報過多の傾向になりサプリメント、民間療法などの宣伝に惑わされ事もあり、基本的自己の生活の見直しが蚊帳の外になり、学習が二の次になりはしないか傾向に刺激えお与える等大きな役割を果たしたと思う。本協議会が患者さんの療養生活にプラスになる役割を充分果たし終えて、今後は本部の協会活動が医療と患者の良き架け橋になってくれること願い筆を置く。

日糖協理事・関東甲信越地区連絡協議会副会長・
千葉県支部長 本山昭一



関東甲信越地区連絡協議会が支部長会、理事会、セミナー等を通じ、各都、県糖尿病協会の意見交換、交流の場になっていたことは間違いのない事実です。会員増強、会費、事務局の運営、ホームページの開設、会報の発刊、世界糖尿病デーのイベント開催等各糖尿病協会の抱えている問題は共通してる点は多く、成功したこと、うまくいかなかったことも卒直に話し合える貴重な場あったと思います。持ち回りで開催していたセミナーも支部活性化と言う観点からも有用であったと感じています。現在、関甲信、東京都、神奈川ホームページも公開されています。コストはかかりませんので、他県でもご検討いただければと思います。東京は大病院が多く、会員減の影響は強く受けています。諸事情を考慮すると、ある程度は止むを得ないことかもしれません。東京都では熱意のある実地医家に友の会の設立を呼び掛けて友の会の数は145とこの数年20%以上増加しています。当面、新友の会設立の促進を図る所存です。地域の友の会が増えることも、協会の活性化に繋がると考えています。さかえや地域の会報もあり、とうゆうだよりの廃刊の影響は少ないかもしれませんが、関甲信として定期的に集まり、意見交換をすることは今後も必要ではないでしょうか。今回解散となりますが、形を変えて、又、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

日糖協企画部長・理事・関東甲信越地区連絡協議会副会長 東京都支部長 菅原正弘



私が糖尿病協会の仕事に携るようになってまだ3年です。50年という長い歴史を考える前に協議会の組織がなくなるのに時代の変化を感じると同時に、このような英断を下されたのも公益法人移行の関係と聞いております。

友の会の運営について感じたことは、多くの支部（神奈川県含め）で会員の高齢化と共に患者会活動維持に苦労されていると思われま

す。これまで長いこと関甲信を支えてきて下さいました方々には心から感謝申し上げます。

などの宣伝に惑わされ事もあり、基本的自己の生活の見直しが蚊帳の外になり、学習が二の次になりはしないか傾向に刺激えお与える等大きな役割を果たしたと思う。

本協議が患者さんの療養生活にプラスになる役割を充分果たし終えて、今後は本部の協会活動が医療と患者の良き架け橋になってくれること願い筆を置く。

本会理事・神奈川支部長 半田みち子



平成 18 年第 25 回関東甲信越セミナーをお世話させていただいた時の事でした。前支部長土屋和子先生から平成 8 年第 8 回の成果を聞きし、「それ以上に充実した会にしなければ」と身を引き締めたものでした。幸い、米国から大塚孝裕先生をご招待し、糖尿病治療の最新情報もお聞きできるなど成功裏に終わる事が出来たのも記憶に新しいところです。このような会を通して各支部の連携が深まったわけですが、今後このような会の開催がなくなるのは大きな柱をなくした思いがして残念でなりません。

新たな連携の場を模索していく必要があると思えますし、私自身もこの連携に力をつくしたいと考えています。

本会理事・山梨支部長 小林哲郎



幕引きに思いに寄せて

本年第 30 回セミナーを最後に関東甲信越地方の数多くの糖尿病患者の御旗であった連絡協議会が日糖協の公益法人移行に伴う組織改革とはいえ終焉の時期を迎えることは、栃木県支部長を受けて日の浅い自分にとっては残念な思いで一杯です。短い期間でしたが多くの方と出会いを通じ糖尿病の奥の深さを学ぶことが出来たことから喜んでおります。今後も更なる研鑽を重ね栃木県 18 の友の会の代表としてすこしでも会員の皆さん方のお役に立つよう精一杯努力する覚悟でいますので、更なる御指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に永年に亘り協議会発展に寄与された方々に対し心よりお礼を申し上げますと共に、益々の発展とご健勝を祈念申しあげ、幕引きの挨拶といたします。

本会理事・栃木県支部長 植村 孝夫



惜しまれつつ去るのが最高の引き際と言われます、広域な連携活動はセミナーを企画された方々の汗と努力により継続されてきました、機関紙「とうゆう」の記事も身近な話題を選び分りやすい内容で親しみが持てました。



いささか情報過多の昨今ですが血糖値維持改善の目的を共有する人々の教材として大変有効でありました。人は誰も参加することに自己の存在意義を感じ、発信する仲間を求めています、教授された多くの知識を活かし次のステップに向かいたいと思います。

糖尿病友の会活動は地味です、継続運営は大変です、継続より成果が得られる、今日の日本の社会活動として極めて大事で日本を救うと言っても過大な表現ではない、友の会なくして糖尿病の治療の目的を達すること不可能です。

日糖協理事・本会理事・長野支部長 柳沢勇三

セミナー終了に当たり

第 30 回を迎え関東甲信越糖尿病セミナーも いよいよ最後となります。



群馬県では過去 3 回開催され糖尿病および予備軍と言える人達の意識改革に取り組んで参りました。各分野の専門的な講演を沢山の先生方にして頂き、楽しくも実のあるセミナーでありましたが、今回で終了となり誠に残念でなりません。これからも糖尿病という最も自己管理の重要な病気と向き合い、長く楽しくつき合って行かなければなりません。セミナーはこの事に大きく貢献したのではないのでしょうか。

セミナーでご講演された先生、開催にご協力いただいた多くの方々に厚くお礼申しあげ筆をおきます。

当会理事・群馬支部長 小池 実

支部長を務めて 1 年 6 月、不慣れ、不手際ご多くスタッフの皆様方に助けられています。支部長会議に出席して皆さんの知識の豊かさに驚いています。これも 41 年間と長い歴史の結果だと思います。多くの先輩の方に感謝いたします。



この度公益法人となり会の名称は変更になりますが一層の発展となることを期待します。

茨城県でも平成 19 年度に第 26 回セミナーを開催し無事に終わることができました。糖尿病患者は増加する一方です、医師、指導員等多くの人達の力を借りながら支部でも横の連絡を密にし活動の強化を図り会員を増やし「さかえ」の色々な情報で自己管理ができる様頑張ります。

本会理事・茨城支部長 大森勝夫

飲んでみてわかる!!「桑の葉っぱ」のすばらしさ

桑の葉茶

こんな方におすすめします

- 健康が気になりだしている方
- 糖のとりすぎを気にされている方
- 脂質のとりすぎを気にされている方
- 肥りすぎを気にされている方

ミネラルたっぷり!!



神奈川県試験研究機関との共同研究によって桑葉について数多くの成果が得られました。この成果をもとに開発された「桑の葉茶」は健康維持に欠かせないミネラル成分を豊富に含み、カルシウムはせん茶の5.3倍、鉄は5倍と高く、亜鉛、マグネシウムなどの微量元素をはじめ、血糖抑制効果のあるDNJ[®]、コレステロール抑制効果のあるフラボノイドなどを豊富に含んでいます。

ご希望の方に
は資料をお送
りします。

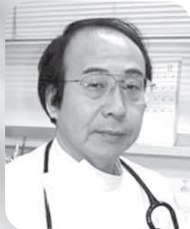
ご注文・お問い合わせは

トヨタマ健康食品株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸船町1-38-12 油商会館ビル5F
TEL 03-3663-0007(代) FAX 03-3663-0006
Home Page: <http://www.kenkoshokuhin.jp>

メッセージ

新潟…八幡和明
埼玉…山口しず子



朝から始めた診療が午後3時を回ってもいっこうに終わる気配がありません。疲れを癒そうコーヒーを買い、飲もうとしてカップの文字に目が行きました。

「たとえ遠く、長い道のりでも、必ず乗り越えられる。日本の力を信じよう！」

思わず心があつくなりました。そう東日本大震災からの復興へ向けてのメッセージなのでした。糖尿病の治療にそっくりあてはまるような気がします。

糖尿病の治療も長く続けていかなければなりません。その時一人より仲間がいた方が心強いですね。一しょに学び助け合いはげし合ったりしながら少しでもよい状態に向かっていきたいですね。その役割を担っているのが糖尿病協会なのです。関東甲信越地区では茨城、長野を皮切りに各県持ち回りで糖尿病セミナーを開催してきました。10回目、20回目を新潟で開催し、今回大きな節目として第30回関東甲信越糖尿病セミナーを11月6日新潟市で開催します。こんな時だからこそテーマは「大切に生きよう！糖尿病治療の新時代を向かえて」としました。画期的な進歩を遂げた治療法や検査の紹介、治療の心理的側面に焦点をあてた糖尿病医療学の提唱、そして災害への備えについて一しょに勉強したいとただいま鋭意準備を進めています。この機会に水の都新潟に是非おいでください。

第30回新潟セミナー世話人 八幡和明

私糖尿病患者になって42年目になり関東甲信越連絡協議会歩みと同じ歴史があります。私の場合い突然高血糖昏睡になり一週間以上続いた後目が覚めたら医師から食事療法とインスリン注射しないと生きられないと言われ「インスリン注射」しないと生きられないのならば助けて欲しくないと言った記憶があり、私の人生半分位の時医師に合いに行き私のために苦勞された事を聞かされ、大変失礼な事言って申し訳ありません、覚えていたら忘れてもらいませんかと言いました。貴方は忘れない患者の一人だった、僕は仕事として当然の事しただけと言われました。心から有り難かったです。

糖尿病とともに第二の人生の始まりで結婚して田舎(岩手)から埼玉の川口に移り住み病院通いが始まり東京の病院で北村信一先生に診察受けておりました「とうゆうだより」93号見て懐かしく思い、今でも私達の為に尽力下さり頭が下がります。当時厳しい方で怖かった事思い出します。今思うと私が若かっただけにあえてそうしてくれたのだと感謝しております、42年前北村先生のおられた病院に教育入院して、二週間の勉強をしました。次の年産科に医師の協力のもと双子が生まれ日々忙しさが増し治療を3年半位治療中断しました。インシュリン注射だけは打っていました。

今42年弱を振り返ると一言では言えませんが。技術の発達と医療機器も改善されインスリンの種類も多くなり、針も痛くなくなり、めざましい進歩し「スグレモノ」ばかりです。糖尿病患者が増加してい

ますが「ザ・ストップ」しないと……

私の参考書は「さかえ」と「とうゆうだより」です。さかえととうゆうだより全部保存しています。とうゆうだよりが今回で終わる？淋しいですね。

私が一番「イヤダ」と言った注射があったから今が有ります、インスリンは命の綱です生涯お世話になります。……とうゆうだより有難う万歳さようなら……

埼玉支部協同病院 あげぼの会長 山口しず子





関東甲信越連絡協議会の思い出

元副会長・元東京支部長 本橋 義治

私が始めて東京支部長に就任したのは平成12年で分会114、会員 7 千余人で分会のあり方、分会の連携、支部の活性化をどうするかでした、当時協議会長田村会長、大槻副会長から新鮮さを貰い啓発され、支部の施策として“ブロック教室”“糖尿病予防都民セミナー”の具体化し今日も継続されています。

松本市で初冬新雪の北アルプス眺め支部長会が開催された事が思い出されます、時移り人変わり今日ですが、公益法人に制度が変わっても益々糖尿病協会が発展するよう願っています。



支部長会議一同：松本市美ヶ原で

平成 12 年度関甲信役員一欄

会 長 田村泰敏
副会長 北村信一、本橋義治、大槻瀬平
支部長 茨 城：吉田 泰 群 馬：大谷健次
栃 木：関和重雄 東 京：本橋義治
千 葉：白石三郎 埼 玉：鈴木裕也
神奈川：田村泰敏 山 梨：大久保快
長 野：大槻瀬平 新 潟：中藤 農
事務局 赤堀和子

関東甲信越地方連絡協議会の幕引きに思う

前事務局長 赤堀 和子

平成 24 年 3 月で協議会は解散になる、私は平成13年度から21年まで 8 年間事務を担当してきました。事務局も東京から横浜と移り現在は松本で会員は 3 万人で組織され現在は 2 万余りになりました。患者数は増加しているにもかかわらず会員数は減少しています。協会の啓発の方法や手段が必要と考えさせられます。

協議会の主な事業としては輪番制のセミナー開催各支部が担当し支部の特徴生かし、動員、時の流れに乗ったテーマ、講師依頼等大変でしたと思います。

セミナー30回はやり遂げ糖尿病の治療、療養の方向の大きな役割を果たした。

次の事業は「とうゆうニュース」の発行でしたが原稿の遅れ、校正、等発行まで四苦八苦でした、内容は医学的な記事は「さかえ」にまかせ地方機関紙としてニュース性を加える方針でした、患者の体験話が重要な情報源であった。

関東甲信越糖尿病セミナー計画提案の趣意書

この文書は事務局引き継ぎの箱の隅にあったので一部割愛し終刊号横井会長の熱意と経過を記録文として掲載した。私は横井会長と面識がありませんし消息も判りませんがセミナー 30 回を横井さんに捧げます。 米沢光夫



「関甲信」発刊され 15 号となり広報メディアとしての役割と療養実をる上大変有用な記事内容が大方の支持を受け好評を博しています。更に新しい事業活動をここに意図いたしました。

「会員倍加運動」を盛り上げるためと関東甲信越協議会発足 11 年目を期して(糖尿病医療セミナー)を開催を提案します、各位のご理解とご支援をお願いします。支部の発展と友の会活動推進と地域の糖尿病関係者を対象に治療、予防と正しい知識の普及と実践と啓蒙を目的としてセミナー計画したいと思ひ実現のため皆様のご理解とご支援をお願いします。

主催は関東甲信越協議会とし、糖尿病学会関東甲信支部の指導をお願いして指導下で開催する。開催場所は一都九県で年次毎に巡回する・世話人は会長が委嘱する・運営資金は出席者からの会費収入、寄付金並びに雑収入によって賄う。

第 1 回は 57 年 10 月中旬頃水戸市において茨城県支部の協会活動に一層発展させる上で益するところ大であると期待したい、支部と連絡を密にしながらい計画の実現にむけて努力する。

昭和 56 年 12 月 15 日 横井清人自筆

波紋

「治療セミナー」発
 足で会員倍加に活

「新たな啓蒙運動の展開」
 「糖尿病治療セミナー」と倍加運動

会長 横井清人

この文書は事務局引き継ぎの箱の隅にあったので一部割愛し終刊号横井会長の熱意と経過を記録文として掲載した。私は横井会長と面識がありませんし消息も判りませんがセミナー 30 回を横井さんに捧げます。 米沢光夫

昭和 57・58 年度役員名簿

会長：横井清人

副会長：五十嵐誠、袖山晴男、永田宗太郎

昭和 57 年 9 月 24 日 (金)
 午前 10 時 30 分より午後 4 時まで
 郡民文化センター 小ホール
 (水戸市千波湖畔)

講演
 ① 糖尿病とは 阿部正和先生
 ② 糖尿病の合併症 山下竜次郎先生
 ③ 糖尿病の療養 石渡和男先生
 ④ 患者教育の実際とコツ 滝山義雄先生

第 1 回セミナー水戸 57 年 3 月

(社) 関東甲信越地区連絡議会 41 年間に思い

日本糖尿病協会理事・本会理事・群馬県支部事務局長 戸所文生



私が初めて関東甲信越地区連絡協議会に参加したのが、平成 2 年栃木県足利市で開催した関東甲信越セミナーでした。セミナー終了後・懇親会が企画され、地元の芸能などが組み込まれ土地柄が見え楽しい会でした。

関東甲信越地区連絡協議会は、東京信濃町・健保会館で毎年 4 月中旬総会が開かれ、信濃町の駅から会館まで満開の桜に囲まれながら歩き、雨に当たり桜の花びらが一面路面に広がった道歩いた、都会の季節を感じた。

関東甲信越地区連絡協議会は一都九県代表総勢 40 ～ 60 名で総会が開催され、平成初期にはインターネットの普及はなく情報が小なくセミナーに寄る情報は糖尿病に関する知識は支部活動の大きな力であった、特に会員増強や新分会の設立には役になった。

41 年間協議会を支えて下さいました関係皆様に感謝いたします。

関東甲信越連絡協議会への思い出

神奈川県支部事務局長 常盤千鶴子

当県支部は昭和 49 年に設立、当初私は関甲信の組織ある事は知りませんでした、昭和 50 年栃木県で開催の関甲信の総会に参加するよういわれ、医師と参加しました。栃木県の会長は元知事で、事務局は日赤病院が司っておりました。総会の内容は遠い昔の事で忘れて記述でませ。総会も当時は各支部持ち回りでその後は東京都内となり毎年参加しました。いつの日かの会議に臨んだ折新潟地震災害にたいして、総会で援護救済の組織を立ち上げたら如何でしょうかと提案しましたが取り上げられず、会の終了後新潟の医師の方が僕は賛成です「地元で考えたい」と申されたのが印象的でした。そして会長選で患者から医師へと代り今日に至り長きに亘り知識の普及、糖尿病の予防、実践のあり方等で協議会は貢献されてきました。41 年の組織の歴史は閉じられ残念ですが、最後に担当されました先生はじめ各事務局のご足労に感謝し筆を置きます。

目で見る活動記録写真

功労者23氏を表彰
第23回関東甲信越理事会



功労者23氏を表彰
第23回関東甲信越理事会

功労者23氏を表彰
第23回関東甲信越理事会

53年7月

10号55年

第2回セミナー—長野上山田温泉58年

第 2 回 糖尿病セミナー 講演集(抄)

と き 昭和58年10月1日(土)
と ころ 長野県戸倉温泉 白鳥園

機関誌発行総会で決
信関甲 全会員と医療機関

インスリン健保給付運動
実現にあと一歩です
北多摩九市で決議 意見書提出

受講証

あなたは日本糖尿病学会
関東甲信越支部主催による
第一回糖尿病セミナーを受講した事を証します

昭和五十七年九月十四日

世話人代表 内海 信雄

第9回 糖尿病セミナー

日 時：平成2年11月17日土 午前9時30分～午後4時30分
場 所：足利市民プラザ



新たな啓蒙運動の展開
「糖尿病治療セミナー」と倍加運動
会長 横井清人

知識だけでは防げない合併症
医療患者の連携で生活調整を……
東京都済生会 北村信一
向島病院副院長

日糖協二十年の歩みの中で
成果上がる集団検診誌「長野方式」に自負
佐久市立国民保健会 吉沢国雄
総合病院名誉院長

日本糖尿病協会の新しい発展をねがって
関東甲信越支部長 池田義雄

「不可逆的」ということ……
よりよい協会活動をめざして
埼玉中央病院内科 鈴木裕也

第14回関東甲信越糖尿病セミナー

共催：日本糖尿病学会関東甲信越支部、日本糖尿病協会関東甲信越地方連絡協議会
後援：群馬県、前橋市、群馬県医師会、群馬県内科医会、群馬県臨床糖尿病の会、群馬県看護協会、群馬県栄養士会、群馬県病院薬剤師会、群馬県臨床衛生検査技術会

日 時：平成7年10月21日(土) AM9:00～PM4:00
会 場：前橋市民文化会館
前橋市南町3丁目32番6号 ☎0272(21)4321 参加費：1,000円

第17回関東甲信越糖尿病セミナー抄録集

糖 DIABETES 尿

糖尿病の新しい見方と
療養生活の向上

血糖自己測定実技



二万六千人を突破

関東甲信越協議会総会開く

昭和62年5月 会員数16,092人

セミナー演者等を複数回担当

◆セミナー創設者横井清人◆

松岡健平・池田義雄・鈴木裕也・大森安恵・河津捷二・土屋和子
伴野祥一・八幡和明・小林哲郎・後藤由夫・中川道夫・北村信一
平田幸生・阿部正和・田中剛二・吉沢国雄

とうゆう複数執筆者

◆発行推進役橋本関蔵◆

北村信一・池田義雄・鈴木裕也・後藤由夫・平田幸生・土屋和子
三浦治雄・中川道夫・遅野井健・横井清人・中山紀夫・吉沢国雄
松岡健平・奈良昌治・北川照男・松岡健平・伴野祥一・八幡和明

三役《2期4年以上》

橋本関蔵・横井清人・三浦治雄・前川正雄・渡辺菊治郎・永田宗太郎
大西正雄・田中甲一・小室 寛・小野恒夫・中山紀雄・田村泰敏・高橋貞二
北村信一・大槻瀬平・本橋義治・田和允宏・菅原正弘・本山昭一

理事等《5期10年以上》

鈴木裕也・池田義雄・松岡健平・平田幸生・吉沢国雄・後藤由夫・奈良昌治
中村昌人・堀内光・岩瀬敏夫・谷日出男・望月峻成・杉浦又三工・高橋一征
林洋一・花島実・土屋和子・西沢照夫・坂本次男・遅野井健・堀口時子
田中剛二・葛谷健・中川道夫・平尾紘一・黒沢宮雄・松葉育雄・斉藤宣彦
木田岡正史・伴野祥一・戸所文生・河津捷二・八幡和明・小林哲郎・石橋俊
常盤千鶴子・米沢光夫

編集後記

編集後記

公益法人移行に伴い定款第52条により本会の組織は改廃し地域ブロック会議になり引き継ぎの運命になりました。昭53年7月20日に池田義雄編集委員長により創刊号が発行されてから平成23年10月1日の最終特集号で停刊となります。97号34年間編集長も池田義雄⇒松葉育郎⇒担当米沢光夫となりました。機関紙として昭和50年代は糖尿病の知識、予防、治療等情報に先生、患者、スタッフ等関係者は飢えていた。私も支部、分会の関係者や患者とバスを借り上げてセミナーや日糖協の講演会に目の色を変えて参加し日常の仕事の指針とした。私の協会の出会いは昭和50年池田義雄先生により友の会の必要性を説かれ国立松本病院に友の会結成。それから、分会や長野支部、関東甲信越と事務局を担当。今日に40年余り携わってきました。とうゆう創刊号、関東甲信越セミナーも始めから出会い、ここに「とうゆう最終号を」編集してサヨナラになり、長い間「とうゆう」の発行に先輩や貢献高い先生方、原稿を心良く応じた皆さんにお礼と感謝し申し上げます。 米沢 光夫

changing
the way
we care for
diabetes




よりよい糖尿病ケアを目指して

ノボ ノルディスクは、すぐれた医薬品の提供だけでなく、患者さんや医療従事者のみなさんの声にも耳を傾け、糖尿病ケアのさらなる改善を目指していきます。よりよい未来のために、私たちは、もっともとお役に立ちたいと考えています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話 (03) 6266-1000 (代表) FAX (03) 6266-1800
www.novonordisk.co.jp



 Bayer HealthCare



早く治ってほしいという
願いを、チカラに。

Science For A Better Life
よりよい暮らしのためのサイエンス

<http://byl.bayer.co.jp/>

バイエル薬品株式会社

Lilly

【一般の方へ】 日本イーライリリー-医薬情報問合せ窓口 リリーアンサーズ

Lilly Answers

リリーの自己注射用注入器のご使用に関するお問合せなどが
ございましたらお気軽にお電話ください。

0120-245-970

9:00 9:45 22:00 24:00

9:00-9:45 音声ガイダンスに よる対応	9:45-22:00 オペレーターに よる対応	22:00-24:00 音声ガイダンスに よる対応
音声ガイダンスによる対応		

製品に関するお問合せも受け付けております。月～金 8:45～17:30

必要なとき、
必要な情報を。

Webでも
ご電話でも
**リリーの
サポートプログラム**

【一般の方へ】 糖尿病情報提供サイト

Diabetes.co.jp

www.diabetes.co.jp

糖尿病情報提供サイトDiabetes.co.jpは患者さんご
とご家族を応援する情報を多数ご用意しております。

一般の方へ糖尿病情報提供
i-modeサイト
www.iDiabetes.jp

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

※ 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

INS-A063(R1)
2007年5月作成

診察室内での
**HbA1c 測定は
おまかせください**



多項目測定 HbA1c, CRP, hsCRP
パナリスト-E100



単項目測定 HbA1c 専用
A1c GEAR S

株式会社 三和化学研究所
本社/名古屋市東区東栄町2番地 〒461-8621
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1881
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

お問い合わせ先
株式会社 三和化学研究所
コンタクトセンター
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1305



とうゆう

さよなら号 2011年

関東甲信越協議会機関紙